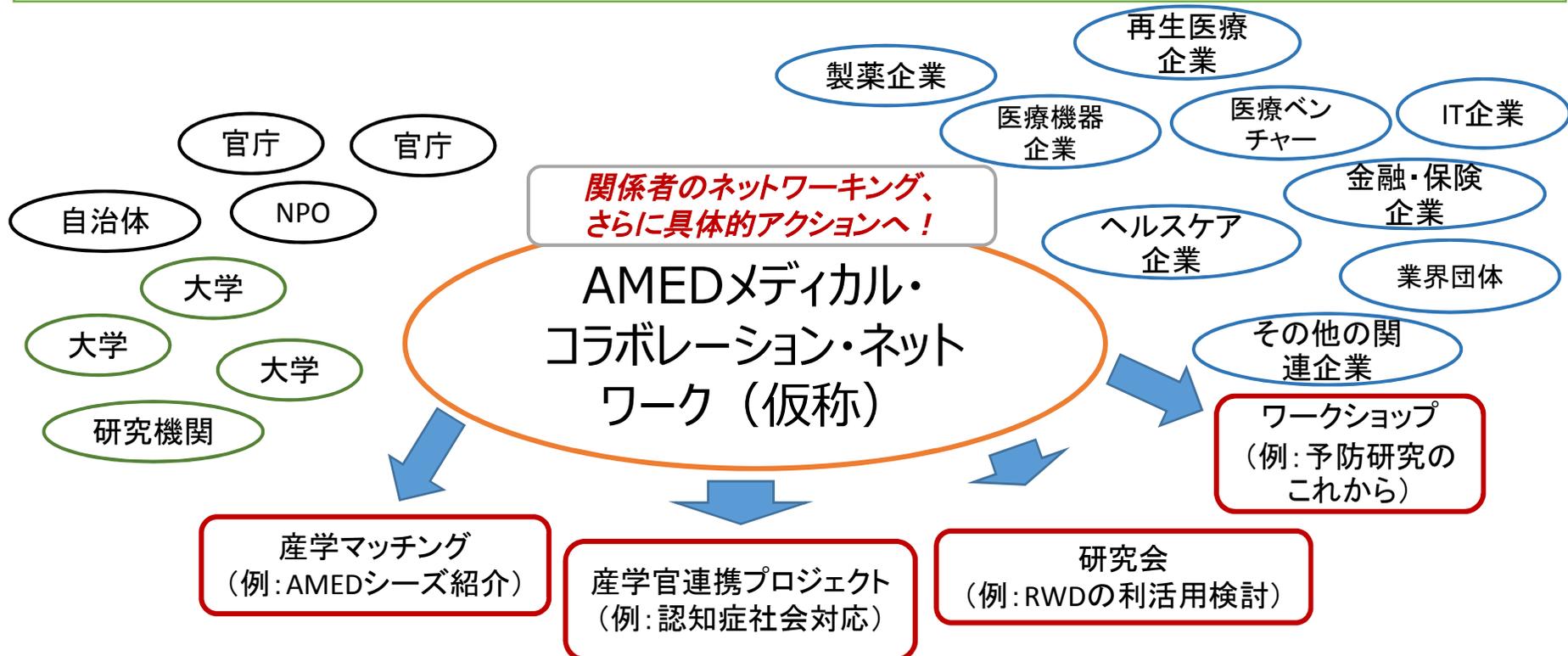


# AMEDメディカル・コラボレーション・ネットワーク（仮称）①（案）

## 目的

- 医療・ヘルスケアのステークホルダー間のコラボレーション/ネットワーキングの場の提供  
（創薬－医療機器企業間、メディカル企業－非メディカル企業間、企業－大学間等、その他医療・ヘルスケア研究開発/ビジネスのステークホルダー間等）
- AMEDが場の提供、その他のサポートを行うことを通じて、企業間、産学間さらには産学官による具体的なコラボレーションアクションの促進を図ることを目的とする。  
（AMEDが有するファンディング機能とは別に、AMEDは医療ステークホルダー間のカタライザーの役割を果たす。）



# AMEDメディカル・コラボレーション・ネットワーク（仮称）②（案）

## 活動例

### ①特定テーマの研究会の実施

有志メンバーによる自主的な研究会を、AMEDメディカル・コラボレーション・ネットワーク（仮称）の活動の一環として実施する。

基本的には単なる勉強会にとどまらず、具体的なアクション（産学官連携、企業間連携、何らかのテーマに関する共同トライアル、その他）に取り組むための前段として、特定の分野/テーマについての研究会と位置づける。

個社/研究者だけでは取り組みづらい横断的なテーマ、異業種・異分野にまたがるテーマその他、提案者/希望者のニーズに応じて柔軟にテーマを設定する。

（例：RWDの利活用手法の検討（RWDの創薬/医療機器研究開発での利用、レギュトリーサイエンスにおけるRWDの活用可能性の検討、企業健保データの活用手法の検討、..）、異業種連携を通じた予防の社会実装手法の検討、その他）

（注）こうした活動を具体的アクション/成果につなげていくため、参加メンバーは上記活動に具体的に貢献・コミットする有志メンバーに、原則限定する。（幹事役も含めて、実際に手足を動かすメンバー（企業、研究者）による活動の場とする。クローズドベースが基本。）

### ②産学官の連携アクションの検討・実施

上記研究会やAMED事業等を通じて、産学官連携ニーズ及び関係者のコミットが得られるテーマについて、産学官連携アクションを検討・実施

（例：認知症の社会実証等）

### ③シンポジウム、懇親会等の定期的な開催(ネットワーキング)

ネットワークメンバーによるネットワーキング等の場の提供。

### ④企業－大学のシーズ・ニーズマッチング機会の提供 等

# AMEDメディカル・コラボレーション・ネットワーク（仮称）③（案）

## お問い合わせ先

○ご関心を有する方、ご提案のある方は、遠慮なく下記までお問い合わせを頂ければと存じます。

### <AMED側担当>

#### 産学連携部

産学連携課長 小川千津 [chizu-ogawa@amed.go.jp](mailto:chizu-ogawa@amed.go.jp)  
産学連携課 和田祥子 [akiko-wada@amed.go.jp](mailto:akiko-wada@amed.go.jp)  
(部長 高見牧人 [makito-takami@amed.go.jp](mailto:makito-takami@amed.go.jp) )

電話（産学連携課） 03-6870-2214

(2019年2月現在)